

130年にわたって採集された微生物さく葉標本の目録の作成と公開

生物生態機能研究領域 對馬 誠也・小坂橋 基夫・吉田 重信・田村 季美子・月星 隆雄*・篠原 弘亮**

(現：*畜産草地研究所、**東北農業研究センター)

はじめに

糸状菌（かび）の分類研究では、標本は不可欠です。特に植物に寄生するかびの新種記載時には、かびが寄生した植物葉を乾燥押葉にした標本（以下、微生物さく葉標本、図1）として保管する必要があります。農業環境技術研究所には、旧農商務省農事試験場時代（明治期）から数多くの微生物さく葉標本が収められています。しかし、今までこれら標本の目録がなく、そのことが標本そのものやその情報を活用する上で大きな支障となっていました。そこで、当所が所蔵する全微生物さく葉標本の目録を作成するとともにWeb上で公開することとしました。



図1 微生物さく葉標本

上図：ポケット（標本袋）

下図：ポケット中のさく葉標本

「農業環境技術研究所 所蔵微生物さく葉標本目録」の概要

農業環境技術研究所で所蔵する、1876年から収集・保存されている微生物さく葉標本7204点（表1）に含まれる、菌種365属1477種、寄主植物621属1322種について基本標本情報として微生物

種名、異名、病名、寄主植物和名、学名、採集地などを整理した標本目録を作成しました。またそれらをデータベースとして加工し、Webサイト上（<http://www.niaes.affrc.go.jp/inventory/microorg/specimen/index.html>）で公開しました（図2）。

利用者は、Web上で、①タイプ標本類、②Sydow氏ら標本、③一般さく葉標本、④日野氏ブラジル採集標本、⑤キノコ類標本、⑥全標本（①～⑤すべて）の中から希望する項目を選ぶことができ、それぞれ項目から検索が可能です。以下にその内容を紹介します。

- ①タイプ標本類（46点）：正基準標本（ホロタイプ）13点とともに、指定された副基準標本（アイソタイプ）2点、および重複標本（パラタイプ）1点を収録しています。
- ②Sydow氏ら標本（254点）：P.Sydow氏、N.G.Lagerheim氏ら著名な菌学者によって、スウェーデン、ドイツ、オーストリアなどで収集された野草類のクロボ菌およびさび菌の標本です。
- ③一般さく葉標本（6611点）：主として日本で採集された微生物さく葉標本で、これらを宿主植物学名のアルファベット順、同一植物で複数の標本がある場合は寄生する微生物の学名のアルファベット順に整理したものです。この中には、日本で植物学名を最初に記載した植物分類学者である牧野富太郎氏が収集した微生物標本7点も含まれます。
- ④日野氏ブラジル採集標本（196点）：日野稔彦氏（元農業技術研究所）が1974-1975年にブラジルのルイス・デ・ケイロス農学校（ESLAQ）に

表1 収録されている標本の種類

標本の種類	点数
タイプ標本類	46
Sydow氏ら標本	254
一般さく葉標本	6611
日野氏ブラジル採集標本	196
キノコ類標本	97
計	7204

滞在中、その周辺地域で採集した標本です。

⑤キノコ類標本 (97点) : 1957-1965年に国内で採集されたもので、学名のアルファベット順に整理しました。

なお、これらの標本については標本が採取された当時の旧地名が記載されていることが多いため、パッケージ (標本袋) に記載されたままの地名を収録し、現在の地名には変更していません。このため、タイプ標本類およびキノコ類標本については、採集府県名および市町村名等を掲載しましたが、一般標本と Sydow 氏らの採集標本などの採集地名は、牧野標本館 (首都大学東京) の例に従い「ラベル地名 (原記載を加工せずにそのまま記載したもの)」欄を作成し掲載してあります。

目録の利用方法と注意点

本目録に関しては、入力されているすべての項目に関してキーワード検索をかけることができます。また、画面上のサンプルの順番を項目毎に「昇順ソート」や「降順ソート」で指定することが可能です。それぞれのサンプル情報は通常列として入

力してありますが、「詳細」をクリックすることにより、その内容を縦方向に整理した状態で1画面で確認することが可能です。

なお、前述の通り本目録の一部の採取地については、パッケージに記載された地名を入力してあります。そのため、現在の住所を知ることができないものもあるので、注意が必要です。

おわりに

標本は糸状菌などの微生物の分類に不可欠であり、本目録は糸状菌の分類研究に貢献すると考えます。

また、本目録は、わたしたちが取り組んでいる微生物インベントリー (*microForce* と命名 : <http://www.niaes.affrc.go.jp/inventory/microorg/index.html>) の一つの貴重な微生物情報でもあります。本目録は、この *microForce* のサイトからも利用可能です。*microForce* サイトでは他の微生物情報も得られるため、本目録と他の微生物情報も合わせて活用するとさらに多くの情報が得られるものと確信しています。



図2 微生物標本目録公開Webサイトのトップ画面